

令和5年度 第1回 みんなで支える森林づくり北アルプス地域会議 概要

日 時:令和5年7月6日(木)10:00~11:50

場 所:長野県大町合同庁舎 講堂

出席委員(敬称略):5名 鈴木 幸佳、橋本拓、福島百子、宮澤 洋介、割田 俊明

事務局:早川地域振興局長、藤澤林務課長、西澤企画幹、高野課長補佐、太目副参事

1 開会

2 あいさつ:北アルプス地域振興局 早川局長

本日は、「令和5年度第1回みんなで支える森林づくり北アルプス地域会議」を開催しましたところ、御多忙の中、御出席いただきありがとうございます。また、ご参集の委員の皆様には、常日頃からそれぞれのお立場で北アルプス地域の振興にご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、今年度から始まりました第4期目の森林づくり県民税では、主に、2050ゼロカーボンの実現に向け、若い森林に更新する再生林を加速させる森林の若返り促進や、病虫害の被害対策やライフラインの保全対策等の市町村と連携した森林等に関連する課題の解決などに取り組みます。

森林税については、4期目を迎えましたが、県民の皆様の「森林税」への認知度は6割以上あるものの、その用途については2割程度となっています。今後は、多くの県民の皆様の認知度が高まるような効果的な広報に努めるとともに、引き続き、取組を通じて森林整備の重要性などを県民の皆様に御理解をいただけるよう進めていきます。

本日の地域会議では、主に第4期の森林税活用事業の事業内容や今年度の森林税活用事業の実施計画などについて、ご説明させていただきます。また、前回の会議で「取組の管内目標の設定」についてご意見をいただいたことから、今期は、管内目標を設定し取り組んで参りますので、これらの内容につきまして、ご意見等をいただきたいと思います。

それでは、限られた時間の中ではございますが、委員の皆様から北アルプス地域の森林づくりに向けた幅広のご意見やご提言をいただければ幸いですのでよろしく願いいたします。

3 会議事項

(1)令和4年度森林づくり県民税活用事業の実績 … 資料1

特になし

(2)第4期森林づくり県民税活用事業の事業内容及び目標 … 資料2

【橋本委員】

信州の森林づくり事業の再生林への補助は、非常にいいと思われる。実際に放置される森林がないように取り組んでいかなければいけないので、そこへの支援は非常にありがたい。また、5年間の目標19haは全県から見ると非常に少ないように思われるが、北アルプスの森林の状況等を考慮した数字と思われ、非常に評価できる設定になっている。

一方、防災・減災のための里山整備については、環境林整備と捉えて間伐を行っているが、この地域は該当する森林が多いので、もっと目標を上げてもいいのではないかと。

また、間伐の内容についても、通常の3割間伐が防災減災や環境林にとって有効であるのかを含めて5年間の取組の中で、一緒に考えていきたい。

【林務課 高野課長補佐】

防災・減災の要件となる里山整備指針に記載された場所が対象地となるため、その場所が通常

の間伐か、指針に基づき早期に間伐を実施した方がいいのかを情報を密にしながら進めていきたい。私も目標の150haよりは多くなる感覚だが、全県的に予算が少なくなってくることも考慮が必要である。

【橋本委員】

この目標は、予算の活用目標であることは理解している。

あたりまえに木のある暮らし推進事業の全県目標が低いと思う。やっていることは理解できるが、もっと目標を上げてもらいたい。小さな建物で木を少し使っても、木材の利用量はどう見ても少ないため、目標値を増やさないと利用量は増えない。

【林務課 高野課長補佐】

県有施設と市町村有施設等の木造化は非常に大切ではあるが、実態として進んでいないのが現状である。そこは、特に山からの流れを作っていくことを含めて課題と認識しているので、取り組んでいきたい。

【鈴木委員】

第4期は税事業が使いやすくなってほしいと思っていたが、しっかり仕組みを作ったところに大きく補助されるようなイメージである。例えば、開かれた里山事業はある程度大きな規模の面積で協議会を作り進めていくところが対象になると思うが、クマが大町温泉郷等で多く出没しボランティアが刈払いをした時に、管理を協定しているところまですべて刈払われてしまった。例えば、こんな時に指導者を依頼するためのちょっとした補助がほしいと感じている。どこでも使えるような小規模の里山がいっぱいあるが、協議会を作るまでもない場所をもっと開いていけるような工夫があればいいと思う。

森林サービス産業については、協議会を作って創業支援を行うようだが、取組が大きすぎると思う。私たちは緑の学習旅行に取り組んできたが、これが森林サービス産業に移行すると説明されていたので、林業体験の学習資料やワークブックを作りたいと考えていたが、創業ではないので使えないことがわかった。そもそも人口減少の社会でそれを生業にする人を応援するだけでは成り立たない時代になってくるため、プラスワンのところに小回りのきく支援が必要だと思う。

目標については、もっと地域らしい強弱が見えるといいと思う。ここで地域目標を設定することが、そのニーズ等から県全体の予算配分を動かすことにもつながるのではないかと思うので、割り振られた中で検討するのではなく、この地域らしいことにどのように取り組んでいくのかという観点で進めてもらいたい。

市町村の森林づくり推進支援金は守りの松くい虫対策が主体だったが、今期からは目的別にメニュー化され非常に良くなった。

【林務課 高野課長補佐】

里山整備利用地域の認定は5ha以上が要件とされているが、場合によっては5ha以下でも認定できる。飛び地でも可能なので、案件により個別に対応したい。また、小面積でも人が入る山があることは承知しているので、それについても個別に対応したい。

【鈴木委員】

学校林の整備等は学校林所有校のみ対象か。

【林務課 高野課長補佐】

所有校でなくても、森林所有者から借り上げ管理する森林が対象となる。

【鈴木委員】

大町市内に東京都の私立中高校の保養所があり、そこで1学年300人ぐらいが林業体験をするという計画がある。そのようなケースも支援対象となればもっと活動が広がると思う。

【割田委員】

主伐・再造林の取組の趣旨は、CO2削減などこの時代に理解されやすいと思われるが、目標設定の考え方が人工林中心となっている。斜度は30度以下の場所を想定しているようだが、この地域は30度以上の場所が多い。特に、小谷、白馬はスギが太くなりすぎて困っているのです、このような場所は主伐して木を植えていかなければいけない。スギは価格が安いので、伐採して材を売っても所有者にお金が返るのかという問題もある。手元にお金が返らなければ木の伐採に関心を持たない人が多い。そこをどのように理解してもらうかが大事なところ。現在はウッドショックが終わって、材価が下がり在庫を抱えている中で所有者への返金が難しい状況にある。現実問題として、今、所有者が主伐に同意するのかという問題があるので、もっと真剣に考えていかないと目標達成は難しいと思う。

この地域の特徴である広葉樹の活用を進めているが、これを健全な森林にすることがCO2削減につながるため、人工林中心の考え方を変えていく必要がある。森林税を使って広葉樹の活用を進めていくことも考えてほしい。

開かれた里山整備事業について、現実問題として多くの協議会が立ち上がってきているが、地域を巻き込むためには、林業関係者だけでなく自治会や地域住民の参加が必要である。今は自治会の役員も成り手がいない状況で皆さんに理解してもらうことに苦労している。地域をまとめるリーダーがいればいいが、なかなかまとまらないのが現状。森林所有者にはお金が戻らなくても地域活性化に結び付くことを理解してもらい住民を巻き込んだ事業にしていかなないと進まないのではないかと。そのためにも市町村にも積極的に関わってもらいたい。里山も観光などいろいろな面で利用できるようになっているので、市町村の観光サイドとも連携して取り組んでほしい。開かれた里山整備事業の補助率は10/10と3/4あるが、地元負担なしでできる仕組みを作っていないと進まない。そのためにも、林務だけでなく、観光、環境からもお金を出せる仕組みを作り負担金なしでできるようにしてほしい。協議会の中にMTBの利用者等が入っているところもあるが、外部の人を入れて整備していけるように、もう少し広域のエリアを使った取組も対象にしていけばもっと進むと思う。熱のある地域は進むがそうでない地域は進まないということにもなる。要するに点から線、面につながっていかない。多くの人に参加できるような仕組みを考えてもらいたい。そのためにも他部との連携が足りないの、関係機関を巻き込んで行うことが林務の仕事だと思う。観光や移住定住には市町村も力を入れているので、地域だけでなく行政も関わっていく仕組みを作ってもらいたい。

あたりまえに木のある暮らしについて、この地域では木造化が進んでいない。木材はCO2を固定することが理解されていないと思われる。木材で家を造ることによって、CO2が固定され削減すると同じ意味になる。行政も2050ゼロカーボン宣言をしているが、公共施設の木質化等、実際のアクションは起こしていない。これには、特に建築設計を行う人を集めて木造の設計を普及させて、木の家に関心があると思われる移住、定住者にも宣伝・普及していくことで木造化が進むのではないかと。是非建築士の皆さんとも情報交換をしてほしい。

まちなかの緑・街路樹の整備は、「花が対象となるのか」など緑地保全の対象を教えてください。

これは建設部の事業だが、予算配分後は各部にお任せではなくて、他部と情報共有を行い、各事業の進捗状況は、林務部が中心になって把握しておくべきだと思う。その辺りが不足していると思われる。この会議にもオブザーバーとして建設事務所や環境課に出席してもらってもいい。林務部が連携を図り進めてほしい。

森林サービス産業は、信濃毎日新聞に掲載された記事があったが、その位置づけは林野庁で2019年に行っているがあまり知られていなかった。今回森林税を使って実施することになり、協議会を作り進めていくようだが、民間でも健康とかの視点でノウハウがあるので、地域でも連絡会議などの組織を作って進めてほしい。特に北アルプスは非常に景観がすばらしいので、独自に協議会を作って民間の人を入れながら移住定住等幅広く結びつけて実施してもらいたい。

【林務課 藤澤課長】

事業のスキームはきれいに記載されているが、実際はいろいろな問題が出てくるため、市町村や地域の皆さんを巻き込んで取り組むことが必要なことは理解している。

【宮沢委員】

森林税の認知度は高いが、活用方法は知られていないようなので、活用事例も広報されており関係者はわかっているが、一般の人に理解されるような広報が必要である。

開かれた里山については、私も池田町のガイドマスターをやっているので、子どもたちや里山ウォーキングの方などが山の中を遊び場にして、そこでの体験等を通じて、特に子どもたちが森林の働きや大切さを学ぶ取組も考えてもらいたい。

また、皆伐などの森林整備で作業道を作っているが、人が入ることで維持管理ができるようにしてもらいたい。また、皆伐などの森林整備で作業道を作っているが、人が入ることで維持管理ができるようにしてもらいたい。

(3)令和5年度森林づくり県民税事業の実施計画 … 資料3

(4)令和5年度「開かれた里山整備事業」の事業計画 … 資料4

【割田委員】

認知度はどのように調査しているか。また、何を広報するのか。

【林務課 西澤企画幹】

県民アンケート調査で行っている。広報の内容は、税の用途を少しでも知ってもらえるように新聞への写真掲載やイベントでの資料展示等を行う。

【割田委員】

その調査方法では、目標の30%の意味は理解できる。良い広報手段は思い当たらないが、最大限頑張ってもらいたい。

【早川地域振興局長】

県全体では用途の認知度目標が30%だが、この管内ではもっと知ってもらいたい。地域ごとに認知度を高めていけば、県全体の認知度も上がると思われるので、管内の認知度が上がるよう取組を考えたい。大糸タイムスは地域の皆さんがよく見ている媒体なので、年1回だけでなく、「合庁だより」の枠を使うことや記事の掲載などで周知する機会を増やすことを検討したい。せめてこの管内は県全体の認知度より上がるよう取り組みたい。

【割田委員】

元気づくり支援金を使った場合は必ず表記するように、森林税を使った場合も必ず表記するようにしたらどうか。

【鈴木委員】

森林税関連のイベントを実施する時に、借りたいと思うような広報用のパネルがあれば展示したい。県のイベントだけでなく我々のイベントでも展示できるが、内容の説明は難しいので分かりやすいパネルがあると活用できる。

【早川地域振興局長】

皆さんに自由に使ってもらえるものが必要。今後、工夫していきたい。

【鈴木委員】

チラシをよく配布しているが、チラシではよくわからない場合が多い。きっと口伝えの方がいいと思う。たまたま娘が先日の「まほろば塾」で箸を作らせてもらったが、「なんでタダなの？」「税金を使っているから」と言われて「おー」と思ったらしい。その会話だけで、学んできたことをよかったと思った。

【林務課 高野課長補佐】

山の日のイベントなどでも森林税を使っていることを話すようにしている。

【早川地域振興局長】

せっかく使っていても知られていない。自分が払っている税金が何に使われているか、分からないのではなく、実はこんなところに使われていたことがわかるようにしないといけない。もう少し県でも工夫をしてみたいと思う。

【鈴木委員】

整備しているところにのぼり旗を設置するなど皆さんにわかるようにしてほしい。

【林務課 藤澤課長】

開かれた里山整備事業の計画については、この会議で承認の可否について意見を聞くことになっているが、承認するということがよろしいか。

【橋本委員】

この会議で承認となると、ある程度責任が発生するので、もう少し検討する必要がある。

そもそもこのやり方がいいのかも含めて考える必要がある。今ある程度責任がある段階では、ふたえ地区は、私も山仕事創造舎として講師で活動に参加しているので活動内容はある程度わかるが、池田町大峰地区はコロナ禍の活動内容等からでは実態がわからない。SDGs研修会も開かれた研修会であったのか、協働で進めることが重要だが実態がわからない。

【林務課 高野課長補佐】

研修会には2回参加させてもらった。里親や広津の自治会向けのものでそれほど開かれてはなかったが、15~20人が参加していた。ここには記載されていないが、認定保育園の池田と会染の保育園の子供たちが大カエデのところで勉強する活動をR3、R4に行っていた。里親活動としては年3回実施している。今後は、森林（もり）の里親の榊S o u G oがコロナ影響で来年から活動する予定。現地を見て知っていただくことが大切なので事務局としては現地活動を実施したいと考えている。今回の事業計画では、中カエデのところシラカバが傷んできているため、これを再生する計画である。

【宮沢委員】

白樺の森として売り出していたので、それがなくなると寂しい状況になる。

【橋本委員】

これからもこの会議で承認するのであれば、ある程度活動状況がわかるものを出してほしい。また、シラカバの更新にも興味があり参加したいとも思うので、特に県民協働の部分はもう少し開かれた形で計画していただきたい。

【宮沢委員】

この会議ではチェックシートの内容を理解すればいいのか？

【林務課 高野課長補佐】

シートは県で作成するので、会議では全体的に承認してもよい計画であるか、ご意見をいただきたい。事務局でも事前に内容を確認し承認できるものを会議に挙げているので、委員の皆様からは、計画をさらに良くするためのご意見等をいただきたいと考えている。ご提示した資料が少なく情報量が足りないと思うので、次回以降は工夫したい。

【宮沢委員】

この事業の話題から外れるが、池田町大峰の大カエデについて、毎年何万人も見に来るが、かなり弱ってきている。高い場所に位置しており展望がよさそうだが、そこから北アルプスが見えない。伐採したい左（西）側は大町市の共有林になっており対応が難しい。前に展望台があったが20年以上経って雑木が成長し北アルプスが見えない状況になった。景観がよくなればもっとすばらしい場所になるが、なんとかならないか。

【林務課 高野課長補佐】

課題は承知しているが、景観のためでは所有者の承諾を取りにくい状況のため森林整備を進める中で考えたい。

【橋本委員】

小川村は住民の理解を得ながら北アルプスの景観のためにスギをかなり伐採している。事例があるので池田町も対応できないものか。

【林務課 高野課長補佐】

伐採したい場所が池田町でなく大町市なので対応に苦慮している。

【割田委員】

この計画は、地域会議で承認する必要があるものなのか。行政で承認すればいいと思うが。地域会議から意見を聞いて承認するのはいいが、2件の計画が開かれた里山なのかは疑問である。里山の計画区域は同意なく指定はできるが、所有者のコンセンサスを得てどこまで指定できているのか、わからない。曖昧の中で進めているため、どういう意味で開かれたということなのか。多くの県民が参加できるという意味で「開かれた里山」としているようだが、定義がわからない。ふたえ地区も広大な区域を指定しているが、全域で実施するわけではない。制度設計上の地域のとらえ方がよくわからない。観光やその他の部分も含めた中でどのような地域にしていくか考えたときには、市町村を含め、もっと周りをまきこんで大きなものにして、連携できるような計画を作れるようにしてほしい。この開かれた里山にふさわしい、いろいろな組織、関係者を巻き込んだ県民参加のものにしてほしい。

【林務課 藤澤課長】

限られた資料の中でご審議をお願いしているので、どこまで開かれているのかわかりにくい点もあったかと思うが、今後の課題としていきたい。今後、皆様のご意見を参考に計画の可否を決定していきたい。